

埼玉
アーツ
シアタ
ー通信

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.76

2018.8-9

ノゾエ征爾
中津留章仁
イスラエル・ガルバン
辻 彩奈
ダニエル・シュー



3
Tribute to 蜷川幸雄

杉原邦生

受け継がれるスピリット
幻の師弟関係(?)にも



すぎはら・くにお
1982年生まれ。演出家、舞台美術家、KUNIO主宰。今後の予定は歌舞伎座八月納涼歌舞伎『東海道中膝栗毛』(構成)、KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース『オイディプスREXXX』(12月)など。第36回京都府文化賞奨励賞受賞。

取材・文 ●
鈴木理映子(演劇ライター)

大学1年生の時に観た『卒塔婆小町/弱法師』(2001年)以来、84作品を観劇。およそ120回近くは、蜷川作品を体験しているという杉原邦生さん。自身のユニットKUNIOや現代劇の俳優、空間で歌舞伎演目を上演する木ノ下歌舞伎での演出活動の一方、歌舞伎『東海道中膝栗毛』の構成やスーパー歌舞伎II『ワンピース』の演出助手を務めるなど大空間でのスペクタクルにも取り組む彼は、商業/非商業、小劇場/大劇場といった枠組みを柔軟に往復する気鋭の若手演出家だ。

もともと「学校行事と絵を描くことが好き」で舞台美術家を目指していたのが、大学の授業で『王女メディア』の映像を観て、演出に興味を持った。「口から赤いテープが出るし、音楽だって、津軽三味線もクラシックの名曲も出てくる。演出ってこんなに自由なんだって」。杉原さんが通った京都造形芸術大学舞台芸術学科は当時、沈黙劇で知られた故・太田省吾さんが学科長を務めるなど、先鋭的な表現を学ぶ場として注目されていた。そんな中、生来のエンターテインメント好きでもあった彼は、当初から「演劇で食べていく」ことを目指した。蜷川作品は、そこにたどり着くための指標でもあったという。「カルチャーショックを与えられたのは太田さん。ディズニーランド好



『王女メディア』(1978年 日生劇場) 写真提供◎東宝演劇部

きで歌舞伎好きな僕を刺激してくださるのは(市川)猿之助さん。蜷川さんはその間の存在で、商業的な場にながら、問題意識を持って、前衛的なことを提示する。そこに憧れとシンパシーを感じます。ビジュアルへのこだわり、それから、過去の自分の作品をも躊躇なく壊して作り直す自己批評の精神にも影響を受けていると思います」

今や、かつて蜷川さんが手がけた戯曲を演出する機会も少なくない。年末には自身初となるギリシャ悲劇『オイディプスREXXX(王)』を上演する。「オイディプスが人間として抱える揺れ、その理由がしっかり見える芝居にしたいですね。蜷川さんは『ギリシャ悲劇を演じられる俳優が日本にいない』と仰っていて。確かに神にも届く熱量を出せる俳優は少ない。でも、叫ぶだけじゃなく、静かに祈ることだって届けることにはなりますから。一人では無理でも、座組み全体でなら大きな熱量を出せるかもしれない。だから……負ける気はしません(笑)。影響を受けたからこそ超えていきたいし、それが次世代の使命だとも思うので」

生前、ニアミスはあれど、直接語り合うことはなかった二人。それでも、作品を通じて受け継がれるスピリットは、ある。



マチュア・アーティスト・ダンス・エクスペリエンス『フロック(ドレス)』 Photo◎Terence Munday

世界ゴールド祭2018
9.22(土)~10.8(月・祝)
彩の国さいたま芸術劇場 ほか

CONTENTS

4 FESTIVAL > ゴールド・アーツ・クラブ×ノゾエ征爾 『病は気から』

6 PLAY > さいたまネクスト・シアター
世界最前線の演劇2 [ドイツ/イスラエル]
『第三世代』

8 DANCE > Noism1×SPAC 劇的舞踊vol.4
『ROMEO & JULIETS』

10 DANCE > イスラエル・ガルバン
『LA EDAD DE ORO—黄金時代』

12 MUSIC > NHK交響楽団
井上道義(指揮) 辻 彩奈(ヴァイオリン)

14 MUSIC > ヴァレリー・アフアナシエフ ピアノ・リサイタル

16 MUSIC > ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.35
ダニエル・シュー ピアノ・リサイタル

18 REVIEW

20 イベントカレンダー/チケットインフォメーション/彩の国シネマスタジオ

23 INFORMATION

24 COLUMN > 林家彦いちの『一歩外へ』

編集◎川添史子、榊原律子 表紙画◎波多野光 デザイン◎GOAT

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1. Aug. 2018 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

※掲載情報は、2018年7月15日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

舞台上で 人生を謳歌する

ゴールド・アーツ・クラブ『病は気から』

ノゾエ征爾 Interview

世界からゴールド世代が集い、高齢社会にクリエイティブな潮流を巻き起こそうと、埼玉県と当財団が今年新たに始動する国際フェスティバル「世界ゴールド祭」。同フェスに参加する『病は気から』は、60歳以上を対象とした彩の国さいたま芸術劇場の芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」による演劇公演だ。「1万人のゴールド・シアター2016」を成功に導いたノゾエ征爾（脚本・演出）が再び指揮を執り、モリエールの喜劇を元にした、高齢者による群集劇の最新作を立ち上げる。

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 山出高士

ノゾエ征爾

Seiji Nozoe

脚本家・演出家・俳優・劇団「はえぎわ」主宰。1995年、青山学院大学在学中に演劇を始める。1999年に劇団「はえぎわ」を始動。以降、全作品の作・演出を手掛ける。映画やTVドラマへ俳優として出演するほか、外部公演にも脚本家、演出家、俳優として多数参加。2010年より世田谷区内の高齢者施設での巡回公演（世田谷パブリックシアター@ホーム公演）や、広島や北九州、静岡など地方での長期滞在制作など、幅広く活動。2012年、はえぎわ公演『〇〇トアル風景』にて、第56回岸田國士戯曲賞受賞。近年の演出作品に『気づかいルーシー』『ボクの穴、彼の穴。』『太陽のかわりに音楽を。』など。「1万人のゴールド・シアター2016」（主催：埼玉県・公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団、会場：さいたまスーパーアリーナ）では脚本・演出を手掛けた。11月、サンシャイン劇場で三島由紀夫原作の『命売ります』脚本、演出、出演予定。



ゴールド・アーツ・クラブ〈ノゾエ征爾演劇ワークショップ成果発表〉
平均年齢70.3歳、60歳以上のための芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」が、約2カ月のワークショップを経て今年の2月に発表した。

ノゾエが「本公演のつもりでつくった」と語る今年2月のワークショップ成果発表は、2組各400名弱の参加者が舞台上がり、歌い、踊り、エネルギッシュな姿を見せてくれた。自分が病気だと信じる男の物語には、「死を目前にしても尽きない欲望」や「それでもどっこい生きていく生命のパワー」が横溢。マイクを向けられた参加者が自身の持病についてコメントする場面が随所に挟み込まれるという構成もユニークだった。この趣向によって、さまざまな身体の不調を抱えながらもパワフルに演技続けようとする、彼らの生の顔が迫ってくるという仕掛けだ。

「公演が終わってから入院されるとおっしゃっていた方もいましたし、ほとんどの方が病気や身体の痛みを持っていますからね。でも『病気なんですよ！』なんてあつげらんと言われると笑っちゃうし、グッと沁みるし、その姿には演出しながらも僕自身、勇気をもらえました」と成果発表を振り返るノゾエ。「この企画の一番の醍醐味は、やはり、彼らの身体と声。本公演でも、フィクションとノンフィクションを混ぜて、混沌とした要素全てが作品の中で生きる見せ方をしたいと思っています」と語る。約1,600名が参加した「1万人のゴールド・シアター2016」との大きな違いは、出演者約800名のほぼ全員が自分のセリフを持ったことだろう。

「どうにか成立させたいとこだわったポイントです。『1万人〜』でもみんながセリフを言いたがっていることは感じていましたが、人数の問題で物理的にならなくてあげられなかった。一言セリフがあるだけでもその人に活気が生まれるんですよ。さらに



欲が深まって『もっと言いたい』という方も出てくるんですけど（笑）、僕自身、一人ひとりと向き合える喜びがあります。ただ個人の輪郭がはっきり見えると感情移入し過ぎるのが難しいところ……怖いですよ。感じすぎると倒れちゃうし、全員に人生があることを意識しながらも重く感じないようにしないと。でも、〈人生かけてる〉人たちのクリエイションだからこそ、濃い面白さがあります」

新たな課題に取り組む新作

この大人数で「よくぞ！」と言いたくなるほど丁寧に接し、それぞれの個性やチャームをすくい出していくのは、ノゾエ演出の真骨頂だろう。「1万人〜」の稽古場では当然、一人のセリフに演出できる時間はほんのわずか。にもかかわらず「叫んでみましょうか」「色っぽく、ささやくように言ってみてください」など、瞬時に次々と指示を飛ばし、みるみる彼らの演技が切実できらめいていく場面を何度も目撃した。「全員が気になっちゃうんです（笑）。かなりのテンションで稽古に挑まないといあの

チケット発売日 一般 8.19(日) メンバース 8.18(土)

ゴールド・アーツ・クラブ × ノゾエ征爾

『病は気から』

9.29(土)・30(日)、10.3(水)～8(月・祝)

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[原作]モリエール(臨川書店刊「モリエール全集」秋山伸子訳より)

[脚本・演出]ノゾエ征爾(脚本家・演出家・俳優・はえぎわ主宰)

[出演]ゴールド・アーツ・クラブ ほか

チケット(税込) S席2,500円 A席2,000円

	9.29	30	10.1	2	3	4	5	6	7	8
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
15:00	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
16:00	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

[上演時間]約2時間(予定)

※ゴールド・アーツ・クラブが、太陽組(☀)と月組(🌙)の2組に分かれて、1日1回交互に公演を行います。

※上演演目は太陽組・月組ともに同じです。

※〈世界ゴールド祭2018〉他公演については、P.23をご覧ください。



「1万人のゴールド・シアター2016」

2016年12月、さいたまスーパーアリーナで上演。60代から90代の男女1,600人が参加、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を下載きにした1日限りの巨大なパフォーマンスに、8,000人あまりの観客が惜しみない拍手を送った。

モードには入れないんですけど、一筆書きで書いていくみたいな感覚でしょうか」

成果発表をさらにブラッシュアップする9月の本公演。7月末に開始する稽古の課題も聞いてみた。

「2月の公演はどこか表面的だったと感じる部分があって、まずはそこを掘り下げるところから始めたいと思います。参加者の皆さんにも、さらに目指したい到達点というのがあるでしょうしね。前は1度だけの打ち上げ花火でしたけれど、今回は複数ステージあることも課題。ちゃんと全ステージ同じクオリティーのものをつくらないといけませんし、自分たちのお祭りではなく、お客さんが楽しむものを提供するんだという自覚をさらに強く持たないと成立しない。ご家族やお友達のみならず、彼らを直接知らない一般のお客さんを説得する表現の意識を深めてもらいたいです」

最後にチームが目指す到達点を尋ねた。

「舞台上で人生を謳歌する、ということに尽きる気がしますね。参加者全員が全身で表現してくれれば、劇場中をその空気で満たせると考えています」

さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇2 [ドイツ/イスラエル] 『第三世代』

6月に『ジハード - Djihad -』で始まった企画「世界最前線の演劇」。第二弾は、ドイツで活躍する劇作家ヤエル・ロネンの『第三世代』に決定！2012年、日本初紹介となった同作のリーディング同様、中津留章仁が演出を手掛け、この知的で多層的な戯曲を立ち上げる。

取材・文 ● 今村麻子 (演劇ライター) Photo ● 片山貴博

中津留章仁 Interview



中津留章仁

Akihito Nakatsuru

1973年3月生まれ。大分県出身。TRASHMASTERS主宰。現代社会の抱える問題点と、そこで生きる人々の骨太で硬質な人間ドラマを描く。近年では劇団外への執筆と演出も多く手掛けている。日本劇作家協会副会長(2018年現在)。主な受賞歴に、紀伊國屋演劇賞個人賞、千田是也賞、読売演劇賞大賞選考委員特別賞、同優秀演出賞など。

世界最前線の演劇

今年6月、『ジハード - Djihad -』で始まった彩の国さいたま芸術劇場の新たな取り組み。現在の変わりゆく国際情勢の中、世界では諸問題を抱える地域の現状を背景にした戯曲が多数生み出されている。そんな作品を同劇場の若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」が上演。ニュースでは届けられない人々の姿を舞台上に映し出す。



世界最前線の演劇1「ジハード - Djihad -」
Photo © 宮川舞子

— 『第三世代』は1976年エルサレム生まれのドイツで活躍する劇作家、ヤエル・ロネンさんの作・演出で2008年に、ワーク・イン・プログレスとしてドイツで初演されました。中津留さんは2012年にリーディング用の上演台本を手掛け、一部戯曲を改訂して演出されています。

中津留 あれから6年が経ちました。今ではヤエルさんはドイツでチケットがなかなか取れない売れっ子作家ですが、日本まで観に来てくれました。当時のわたしもやんちゃだったのか(笑)、作家本人の前では台本通りに上演するのはつまらないと思った。それと、日本の観客が観たときに伝わるように「自分たちの問題にする」という文脈で、日本の戦後の韓国や中国との関係に繋がるようなセリフを足しました。そういう向き合い方をしたことで、俳優に変化が出たことが大きかったですね。2014年に韓国の演出家キム・ジェヨブが、(中津留の戯曲)『背水の孤島』を韓国版としてドウサンアートセンターで上演したときも同じようなことを感じました。震災後の日本を描いた作品だから、韓国の俳優やスタッフにとって海の向こうの話だったはずが、そのときセウォル号沈没事故が起きたことで、彼らは自分たちの問題として捉えることができた。残酷な話ですけど、それをきっかけに俳優たちがエモーショナルになり劇的に演技が変わっていったんです。

— 6年前の「自分たちの問題にする」上演台本を踏まえ、あらためて中津留さんと思うこの作品の本質はどこにあると思いますか。今回はオリジナル戯曲をもとに演出されるそうですね。

中津留 6年前のリーディングは「戦争を扱った作品を紹介する」というイントロダクションという側面が大きかったと思う。でも今は、いい悪いは別として、紛争や外国人移住者の問題がより身近になりました。その分、観る側もやる側も土壌は温まっているので、作品の本質をもっと届けたい。『第三世代』はドイツ、イスラエル、パレスチナの三カ国の国籍を持った登場人物で展開していきます。ヤエルさんの旦那さんがパレスチナ人ということもあり、この作品を着想され、俳優たちと合宿をして意見を重ねることで作品を立ち上げていったそうです。何日間か一緒に生活をしながら、強制収容所や難民のことなどを話し合い、親や祖父母の世代から聞いた話や体験談も含めてテキスト化された。作品から批



判精神をすごく感じますが、日本人が日本の観客を前にすると、自虐的なアイロニーと毒のあるジョークのニュアンスを伝えるのが難しい。

理性に訴え、知的好奇心をくすぐる

— わたしたちが、ドイツ、イスラエル、パレスチナの諸問題が身近ではない分、ジョークをどのように捉えるかについても興味があります。

中津留 たとえばイスラエル人なのにイスラエルのことを批判し、命の尊さや人間の尊厳に対してジョークを飛ばし、軍事力の差を皮肉な笑いにするなど、ドイツでは笑いが起こっても、日本だとまたちょっと違ってきますからね。ドイツで活動するイスラエル人という背景も大きかったと思いますが、観客の共感を得る見方をさせるのではなくて、逆の立場からも描いていく。ジョークを交えて理性的なものに訴えるところにヤエルさんの作品の本質がある。6年前の稽古では「これはジョークでいいのだろうか」「皮肉で言っている文脈か」「作家のシンプルな思いなのだろうか」というところを常に確認していた記憶がある。ストレートに思いを伝えるべきか、婉曲して伝えるべきかに関わってきますから。

what's 『第三世代』

ベルリン・シャウビューネ劇場とテルアビブ・ハビマ劇場、テアター・デア・ヴェルト(世界演劇祭)、ルールトリエンナーレによって共同製作された作品。ユダヤ人の大量虐殺やナクバを経験した世代から三代目に当たる登場人物たちが背負うアイデンティティの問題を、皮肉やジョークを混ぜながら描く会話劇だ。日本では2012年、国際演劇協会(ITI)の「紛争地域から生まれた演劇シリーズ4」でリーディングとして上演された。

— このシリーズの第一弾『ジハード - Djihad -』で、紛争やテロなどが他人事ではないものとして感じましたが、『第三世代』で描かれる難民問題なども6年前に比べて身近なものに感じます。

中津留 日本人の生活はそれぞれ大変でも、労働力は外国人に頼らなければならないほど危機的状況です。お金で契約する労働力だけだと、その人の持つ背景や歴史はお金で買えるのだろうか。そのことを問わないといけな。外国人移住者を受け入れるということは、日本人のアイデンティティに関わる問題です。それぞれの美があり、価値観が違う。彼らが善とするものと、わたしたちが善とするものが違う場合、多数派の日本人の善を彼らに強制することはできないと思うんですよ。それができないと日本は多様化できないと思う。

— 今の日本で『第三世代』を上演する意義はどこにあると思いますか。

中津留 いちばんの大前提として「この戯曲は何を求めているのか」を考えます。『第三世代』を今の日本で上演するということは、どういう意味をなすのか問う。読み込むと作品の根底にある自虐ジョークは、だんだん笑えなくなってくる。でも、それはイスラエルでなかなか上演できないという意味であって、ドイツという国がユダヤ人に対して行ってきたことを逆説的に捉えることでもある。作り手側と観客側が共感することは重要だけど、その基準をどこに見出し、何を投げどころにするべきか。ポストドラマでオーソドックスなドラマがない分、観客の理性に訴えて、知的好奇心をくすぐってほしいですね。演出の構想は広がっていきます。

チケット発売日 一般9.1(土) メンバーズ8.25(土)

さいたまネクスト・シアター
世界最前線の演劇2 [ドイツ/イスラエル]
『第三世代』

11.8(木)~18(日)

彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO

[作]ヤエル・ロネン&ザ・カンパニー [翻訳]新野守広
[演出]中津留章仁 [出演]さいたまネクスト・シアター
チケット(税込) 全席自由(整理番号付) 一般3,000円
U-25* 2,000円 メンバーズ 2,700円

11	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
14:00				休							
19:00											

※日本語上演
※開場は開演の20分前です。
※開場時間よりチケットに記載されている整理番号順のご入場となります。
開場時間を過ぎますと整理番号は無効になります。
※特設劇場での上演のため、椅子の形状が通常と異なります。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



チケット販売中

Noism1×SPAC 劇的舞踊vol.4
『ROMEO & JULIETS』9.14(金)19.00、15(土)17.00、16(日)15.00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール[演出振付・出演]金森 稔
[音楽]S.プロコフィエフ(Romeo and Juliet)
[衣裳]YUIMA NAKAZATO
[美術]須長 檀、田根 剛(Noismレパートリーより)
[原作]W.シェイクスピア『ロミオとジュリエット』(河合祥一郎訳より)
[出演]Noism1+SPACチケット(税込) 全席指定 一般5,500円
U-25*(枚数制限あり)3,500円[主催]公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
[共催]公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団※開演時間を過ぎますと、しばらくの間ご入場いただけない場合や、ご席に
着席できない場合がございます。予めご了承ください。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書を
ご提示くださいNoism
ノイズムりゅーとびあ新潟市民芸術文化会館
の専属舞踊団。これまでに10カ国
16都市で公演を行うなど、新潟を拠
点に世界に向けて作品を創作してい
る。日本初で唯一の公共劇場専属
舞踊団であり、21世紀の新しい劇
場文化モデルとして各方面から注目
を集めている。www.noism.jp

金森 稔

Jo Kanamori

Noism芸術監督/りゅーとびあ舞踊
部門芸術監督
舞踊家、演出振付家。17歳で単
身渡欧、モリス・ベジャール等に師
事。オランダのネザーランド・ダンス・
シアター2在籍中に20歳で演出振
付家デビュー。10年間欧州の舞踊
団で活躍後帰国。2004年、りゅー
とびあ舞踊部門芸術監督に就任し、
日本初の劇場専属舞踊団Noismを
立ち上げる。SPAC
スパック静岡市内にある専用の劇場や稽古
場を拠点に、俳優・スタッフが活動
を行う日本初の公共文化事業団。
1997年より活動を開始し、現在は
宮城聡芸術総監督のもと、世界最
高峰の演劇祭であるフランス・アヴィ
ニョン演劇祭に公式プログラムとし
て招聘されるほか、地域での活動も
展開している。www.spac.or.jp

Noism1×SPAC 劇的舞踊 vol.4

『ROMEO & JULIETS ロミオとジュリエットたち』

稽古場レポート

舞踊家の身体と重層的な物語で描くNoismの「劇的舞踊シリーズ」最新作が、9月の埼玉にやってくる。
シェイクスピアの名作をベースとしながら現代性を映す、舞踊×演劇による『ROMEO & JULIETS』。注目作の稽古場の模様を送る。

取材・文◎尾上そら(ライター) Photo◎遠藤 龍

『ROMEO & JULIETS』最新舞台写真
Photo©Kishin Shinoyama6月半ばの週末。金森稔率いるダンス
カンパニー Noismの公開稽古を訪ねた。
Noismは創作過程に新潟市民を中心とす
る支援者に向け、作品の一部を見せる機会
を設けている。今日は7月初頭から新潟、
富山、静岡、そして埼玉と4都市をツアー
する劇的舞踊シリーズ第4弾『ROMEO &
JULIETS』の一幕部分を見せるのだ。稽古
場でもある彼らのホーム・りゅーとびあ 新
潟市民芸術文化会館のスタジオには、その
壁の一面にズラリと椅子が並べられ、期待
に満ちたギャラリーが早々と席を埋めた。「劇的舞踊」は「劇的＝ドラマティックと
は何か」を模索すると共に、“物語”を作品
にすることが少なくなったコンテンポラ
リーダンス界に、一石を投じるべく2010
年から始まったシリーズ。『ホフマン物語』
(2010年初演)、『カルメン』(2014年初
演)、『ラ・バヤデール-幻の国』(2016年
初演)と回を重ねており、また『カルメン』
からはSPAC-静岡県舞台芸術センター
の俳優を客演に迎え、「言葉」も作中に積極
的に取り込んできた。今作には舞踊家11
人に対し、これまで最多の俳優8人が客演しており、その“狙い”も気になるところ。
「いきましょうか」という金森の一言と同
時に音楽が場を満たす。作曲家S.プロコ
フィエフがバレエ版『ロミオとジュリエット』
のために紡いだ楽曲はドラマティック
なスコアばかりだが、中でも序曲の迫力は
図抜けている。その荒ぶる旋律に乗せ、金
森はシェイクスピア独特の韻律で編まれた
序章の台詞を、様式性の高い発語法と身体
を持つSPACの俳優たちに力強く群唱さ
せうえ、全く同等の比率で舞踊家たちを
場に放ち、身体と言葉、舞踊と演劇をぶつ
けて見せたのだ。モンタギューとキャピュ
レット、諍いやまぬ両家にも重なる圧巻の
幕開きは一瞬で観客を捉え、深く作中へと
引き込み、時を忘れさせた。
「継続的なSPAC俳優との協働でも、舞踊
と語りの境界は舞台上に厳然とあり続け
た。その境界を超えるためには物語舞踊
の固定観念を解体し、既存の劇時間の流れ
や、言葉と舞踊の量的バランスなど一度壊
したうえで再構築すべきだと思っていたん
です。殊にシェイクスピアの言葉は強度も
量も圧倒的だから、身体言語と共存させる
には力技も必要。舞踊家と俳優、それぞれに型や様式を持つことで、抽象化した身体
と言葉とを同等にぶつけることから創作は
始まりました」とは、金森の弁。車椅子の
俳優がロミオを演じることは“身体への負
荷、拘束とそれに伴う発語の必然性”を検
証する仕掛けとのこと。また設定を病院と
し、神経症的仕草を繰り返す5人の女性舞
踊家によるジュリエットをはじめ、俳優も
舞踊家も『ロミオとジュリエット』の登場
人物と同時に、愛や死に憑りつかれて病む
現代人をも体現する作品の重層的な構造
は、流石という他ない。場面は怒涛のごとく進み、劇中最も有名
な“バルコニーの場”、ロミオとジュリエッ
トが初めて互いの想いを確かめ合うシー
ンで幕切れとなった。拍手の後、やや放心し
たような観客たちに「驚きました？ どれ
くらい皆さんの予想を裏切ったでしょ
うか」と語りかけた金森は満面の笑顔で、取
材時も「初めて観客を前にしたことで、俳
優からはその矜持を懸けた“言葉で観客を
捉えようとする”大きなエネルギーが生ま
れたし、触発された舞踊家も“言葉を凌駕
して身体で語る”ことに集中していた。“こ
の先”が期待できる良い機会になりました」と、稽古で得た充実感を隠さなかった。
「表面上は平和そのものの日本は、だから
こそ人の心の闇や社会的病理が複雑かつ沈
潜化している。劇場は、現実逃避という一
時的快楽を与えるだけでなく、人間のそれ
らネガティブな一面を暴き、確認・共有す
ることで昇華させる機能も有していると私
は考えています。今作では、“愛ゆえに死
を選ぶ”という究極的な選択を実践した男
女を描くことで、その対極にある、死を賭
すほどの理想や理由も持たず、ただ平穩に
長く生きることだけを望む現代人の病と、
彼らがすぎる科学や医療の歪、個人を無化
する監視社会の暗部などを可視化すること
ができる。これは劇場と舞台芸術にしかで
きない“告発”でもあるのです」(金森)
金森自らも、ロミオとジュリエットの仲
介役ロレンス神父＝医師として出演し、副
芸術監督・井根佐和子は、冒頭でロミオが
恋していたロザライン＝ドラマの鍵とな
るアンドロイドの看護師として踊る。不滅
の恋愛ドラマから現代の深層を映す問題作
へ。金森とNoismが突きつける、シェイク
スピアの最新進化形は、観る者を等しく震
撼させるだろう。

— ガルバンさんはフラメンコづくしの環境で育ったとか？

まさに家族みんながフラメンコという環境でした。というより、フラメンコがわたしの家族と言ってもいいくらい。わたしの場合はバイレ(踊り)ですが、強制されて学んだのではない。育つ過程でひとりでの身につけてしまった。体の一部なんです。

— フラメンコ舞踊団に所属して踊り始めるのは1994年ですね。ダンサーとして踊ることから、「作品」をつくるということを意識したのはいつごろですか？

自分の作品を初めて発表したのは1998年です。2000年に身体が変容してゆくということをテーマに、『変身』という作品をつくった。1998年からの4年間ぐらいは、フラメンコとダンスのあいだを行きつ戻りつしていました。当時の観客はわたしの表現をあまり理解してくれなかったんです。

— フラメンコとダンスのあいだを往き来する？ 興味深いです。ガルバンさんはフラメンコの伝統のなかに深く入り込み、伝統を極めた者だけに可能な先鋭性を獲得しているという印象をもっています。

わたし自身は自分のことを「フラメンコの踊り手」と捉えている。そして少しずつ

ではあるけれど、今、自分のフラメンコの語彙をつくってゆく過程にいます。何がフラメンコかという、すべての動きがフラメンコでありうる。フラメンコ的なエネルギーというものが存在していて、それがいちばん重要なんです。わたしからそのエネルギーがなくなったら、その時こそわたしにとっての危機でしょうね。

「黄金時代」は「静のフラメンコ時代」

— 『黄金時代』は19世紀末から1930年代ぐらいまでを指すと聞きます。ガルバン

さんは、この時代をどのようにイメージしていましたか。

わたしが幼少のころは「フィエスタ」、つまり祭りが盛んだった。いろいろな芸人たちが、多彩なパフォーマンスを騒々しく繰り広げていました。その前の時代に遡ると、「静かなフラメンコ」というものが存在していた。それに対して、わたしの時代のフラメンコというのはリズムとハーモニーのフラメンコです。パコ・デルシア¹とかエンリケ・モレンテ²とか。「黄金時代」というのは「静のフラメンコ」の時代のこと

です。この時代はハーモニーとリズムを引き立たせるよりも、静かな方向に向かいます。今のやり方でこの時代を作品にすると、逆に新鮮な感覚をもたらすのではないかと思うんです。

— 静と動が際立つガルバンさんのテクニックの鋭さ。日本の居合道などを思い起こします。フュージョンというように、異種の要素を取り入れてフラメンコに幅をもたせる人もいますが、ガルバンさんはまず伝統に深く降りてゆきながら、フラメンコに新風を吹き込む。この方が難しいやり方

です。

伝統的なフラメンコというのも、いつも変化してきたんです。20世紀初めごろの映像を見ると、たとえばピセンテ・エクスデーロ³はフラメンコに見えないかもしれません。野生的で自由なフラメンコを踊っていました。またカルメン・アマーヤ⁴は女性が慣習的にもっていた表現を壊した人だった。そういった意味で、わたしも伝統的なフラメンコを変えつつ踊っている。そんな意識をいつももっています。

— 『黄金時代』においてガルバンさんが



Photo © Félix Vázquez

ミュージシャンの二人に対して、カーテンコールのときばかりでなく舞台全体を通じてリスペクトをもってしているということが強く感じられ、そのことにも感動しました。

この作品では音楽と踊りの在り方が、通常のフラメンコとは異なるかたちで存在するように作り直しました。つまり音楽家が背後にいて踊り手が前に出て踊る、というのではない。ギターがいてカンテがあって踊りがある。その三つの要素が同等に存在しているんです。

— 音響がよく、照明がひと際映える彩の国さいたま芸術劇場で現代フラメンコの粋を見られる。とても楽しみです。

- 1 パコ・デルシア (1947-2014年)：驚異のテクニックで歴史に名を残すフラメンコギターの星
- 2 エンリケ・モレンテ (1942-2010年)：伝統から革新的な曲まで歌う、現代フラメンコを代表する歌手
- 3 ピセンテ・エクスデーロ (1888-1980年)：フラメンコを芸術の域に高めた巨匠
- 4 カルメン・アマーヤ (1913-1963年)：フラメンコの歴史においてもっとも有名な情熱の踊り手でもあり、歌手でもある女性

チケット販売中

イスラエル・ガルバン

『LA EDAD DE ORO—黄金時代』

10.27(土)・28(日)15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出・振付]イスラエル・ガルバン

[出演]イスラエル・ガルバン、
ダビ・ラゴス(カンテ/歌)、アルフレド・ラゴス(ギター)

チケット(税込) 一般 前売 S席6,000円 A席4,000円
U-25* 前売 S席3,000円 A席2,000円
メンバーズ 前売 S席5,400円 A席3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※当日券は各席種とも+500円
※A席(サイドバルコニー・2階席の一部)は舞台の一部が見えづらいお席です。

[関連企画]

イスラエル・ガルバンによる

ダンス未経験者・初心者のためのフラメンコワークショップ
ガルバンならではのテクニックを直に学ぶ貴重な機会!

10.29(月)16:00~17:30 会場:彩の国さいたま芸術劇場

対象:「黄金時代」チケットをお持ちの方(スキル・ジャンル・経験不問)

参加費:3,000円(税込) 要事前申込み ※詳細は財団ホームページをご覧ください。



イスラエル・ガルバン

Israel Galván

スペイン・セビリア生まれ。複雑でスピーディーなフットワーク、卓越したリズム感、フラメンコの新たな世界を切り拓く独創性で知られる。著名な舞踏家の両親よりフラメンコを学び、幼い頃より舞臺に立つ。1994年マリオ・マヤ率いるアンダルーサ・ダンス・カンパニーに入団、「天才」「革命児」「アバンギャルド」等の賞賛を欲しいままにする。1998年には自身のカンパニーを創設。以来、カフカの『変身』を題材とした『ラ・メタモルフォシス』(2000)をはじめ、既成概念を覆す革新的な作品を次々発表。スペイン国内で多数受賞のほか、2012年ベッシー賞(NY)、2016年第16回英国ナショナル・ダンス・アワードの特別賞(Special Award for Exceptional Artistry)を受賞。パリ市立劇場アンシエイト・アーティスト。近年では、『SOLO』『FLA.CO.MEN』をあいちトリエンナーレ2016で上演し話題となった。

©Dublin Dance Festival

イスラエル・ガルバン

『LA EDAD DE ORO—黄金時代』

2016年、彩の国さいたま芸術劇場でアクリム・カーンとの共作『TOROBAKA(トロバカ)』の上演が予定されていたが、ガルバンの怪我により公演が中止。今秋、ガルバンがミュージシャン2人と待望の来日公演を行う。世界の都市で衝撃を与え続けるソロの代表作『LA EDAD DE ORO—黄金時代』である。今やフラメンコの枠を越えて、欧米の劇場でもっとも賞賛される舞踏家の一人である彼に抱負を聞いた。

取材・文 ● 石井達朗(舞踊評論家) 通訳 ● 岡田理絵

イスラエル・ガルバン Interview

モーツァルトを演奏する喜びは格別 オーケストラとの対話を大切に

2016年初夏、クラシック界にビッグニュースが飛び込んできた。日本の若きヴァイオリニスト、辻彩奈がモントリオール国際音楽コンクールのヴァイオリン部門で優勝の栄冠に輝いたのである。当時、

彼女は18歳、東京音楽大学1年に在籍中だった。

モントリオール国際音楽コンクールは、カナダのモントリオールで5月22日から6月2日にかけて開催され、この年は世界34カ国から206名が応募、前回は70パーセントも上回る記録的な応募数となった。「モントリオールでは初めてホームステイ

を経験し、とてもリラックスした気分で演奏することができました。コンクールということは忘れ、コンサートのような気分で演奏することができました」

優勝とともにバッハ賞、パガニーニ賞、カナダ人作品賞、ソナタ賞、セミファイナルベストリサイタル賞の5つの特別賞も受賞するという快挙を成し遂げた。同コンクールの本選で演奏したシベリウスのヴァイオリン協奏曲は、以後彼女の名刺的な存在となっている。

「もちろんシベリウスも大好きな作曲家ですが、私が一番好きな作曲家はモーツァルトなんです。でも、子どものころはモーツァルトのよさがまだ理解できませんでした。次第に曲のすばらしさがわかるようになり、いまではモーツァルトを演奏する喜びは格別だと思っています。今回は井上道義さん指揮NHK交響楽団とモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番「トルコ風」で共演できることになり、いまから気持ちが高揚しています」

この協奏曲第5番は、小学生のころにスズキメソッドで勉強しているときに学んでいる。

「当時は、明るくてきらきらした曲だと思っていました。いまはオーケストラとの音の対話、特に管楽器とのやりとりがとても興味深いですね。オーケストラの規模も弦楽器が少なめで、室内乐的な響きが楽しめます。私はオーケストラと一緒に演奏す

るのが大好きで、管楽器の人と目を合わせたりしながらコミュニケーションをとるのが好きですね」

今回はNHK交響楽団との初共演となる。「実は、2015年にハノーファー国際ヴァイオリン・コンクールに参加したのですが、そのときにモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第3番を弾き振りするという貴重な経験をしました。リハーサルからオーケストラがとてもフレンドリーで、すごく楽しんで演奏することができました。コンクールなのに、こんなにも楽しく演奏できるなんて、とモーツァルトがより身近に感じられるようになりました。今回はNHK交響楽団との共演ですから緊張感もありますが、対話を大切にしたいです」

協奏曲第5番「トルコ風」は 3つの楽章どれも魅力的

ヴァイオリン協奏曲第5番はそれぞれの楽章がとても個性的であり、魅力的である。各々の楽章に関しては、こう話す。

「第1楽章はこれから何が始まるのかかわからないという感じで開始しますが、いきなり光が射し込んできて、輝かしい空気がただよいます。第2楽章は本当に美しい楽章です。まるで天に召されていくような感じを受け、1本の線がずっと続いていて、少しずつ前に進んでいくよう。第3楽章の“トルコ風”はとてもチャーミング。オーケストラとの音の対話も興味深いですね。

私はモーツァルトの作品は、抑制して演奏しなければならないと感じていた時期があり、子どものころは運動会みたいに激しく弾いたり、超絶技巧を前面に押し出したような曲に惹かれていたため、モーツァルトの深みのある音楽が自分には向いていないと思ってしまったんです」

ところが、高校1年のときに日本音楽コンクールに参加し、課題曲だったモーツァルトの《ヴァイオリンのためのアダージョ》KV 261を演奏し、そのすばらしさに開眼した。ここから辻彩奈のモーツァルトに対する熱い思いがスタートすることになる。

彼女は作品によってステージ衣装も考える。シベリウスのコンチェルトでは寒色系ですっきりとしたデザインを着用。他の作品でもはっきりした色を好み、あまり装飾は付けない。演奏は凛として明快で前進するエネルギーに満ちているが、性格も同様にひとつのことに打ち込む強さを備えている。

今後はJ. S. バッハの《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ》が視野に入っている。名器Joannes Baptista Guadagnini 1748を存分にうたわせ、辻彩奈は自身の歌を奏でる。今回は、その心意気をモーツァルトから受け取りたい。



辻彩奈 Interview

一番好きな作曲家は モーツァルトなんです

今年の秋も、NHK交響楽団が埼玉会館にやってくる!

ソリストは、人気急上昇中のヴァイオリニスト、辻彩奈。

2016年、18歳でモントリオール国際音楽コンクール優勝、

今年は出光音楽賞を受賞し、デビューCDをリリースとますます注目を集めている奏者だ。

演奏する曲は、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番「トルコ風」。

公演への思いをうかがった。

取材・文 ● 伊熊よし子 (音楽評論家) Photo ● ヒダキトモコ



辻彩奈 (ヴァイオリン)

Ayana Tsuji

1997年岐阜県生まれ。2016年モントリオール国際音楽コンクール第1位、併せて5つの特別賞を受賞。モントリオール交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団等と共演。現在東京音楽大学に特別特待奨学生として在学中。これまでに小林健次、矢口十詩子、中澤きみ子、小栗まゆみ、原田幸一郎の各氏に師事。使用楽器はイェローエンジェルより貸与されているJoannes Baptista Guadagnini 1748である。2018年4月モントリオール国際音楽コンクールの模様を収録したCDをリリース。第28回出光音楽賞受賞。



井上道義 (指揮)

Michiyoshi Inoue

ニュージーランド国立首席客演指揮者、大阪フィル首席指揮者、新日本フィル、京都市響、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督を歴任。2017年7月、大阪国際フェスティバルにて「バーンスタイン：ミサ」を自身23年ぶりに総監督(演出・指揮)として率い、壮大で唯一無二な舞台を作り上げたと各方面にて非常に高い評価を受けた。2016年「渡邊暁雄基金特別賞」、「東燃ゼネラル音楽賞」、2018年「大阪文化賞」、「大阪文化祭賞」、「音楽クリティッククラブ賞」をトリプル受賞。自宅にアヒルを飼っている。



NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

1926年に新交響楽団として結成され、日本交響楽団の名称を経て、1951年NHK交響楽団と改称。カラヤンなど世界一流の指揮者を次々と招聘し、歴史的名演を残している。現在、年間54回の定期公演に加え、全国で約120回の演奏活動を実施。また、2013年8月にはザルツブルク音楽祭に初出演、2017年春にベルリン、ウィーンをはじめ、ヨーロッパ主要7都市で公演を行うなど、その活動ぶりと演奏は国際的にも高い評価を得ている。指揮者陣は、首席指揮者P・ヤルヴィ、名誉音楽監督C・デュトワ、桂冠名誉指揮者H・プロムシュテット、桂冠指揮者V・アシュケナージ、名誉客演指揮者A・プレヴィン、正指揮者 外山雄三、尾高忠明。

チケット販売中

NHK交響楽団

井上道義(指揮) 辻彩奈(ヴァイオリン)

10.6(土)16:00 埼玉会館 大ホール

[曲目]モーツァルト：歌劇《ドン・ジョヴァンニ》序曲
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 KV 219「トルコ風」
ブラームス：交響曲 第4番 ホ短調 作品98

チケット(税込) 一般 S席6,500円 A席5,500円 B席4,500円
U-25*(B席対象) 2,000円

メンバーズ S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書を提示ください。
※15:25~15:40に、指揮者 井上道義氏によるプレコンサートトークあり



Photo © 林喜代種

ヴァレリー・ アフアナシエフの 帰還

Valery Afanassiev

独自の探求で作品に迫り、己の哲学を聴かせるピアニスト、
ヴァレリー・アフアナシエフが、彩の国さいたま芸術劇場に19年ぶりに帰ってくる。
20世紀末から現在までの年月のあいだ、不変でいる人間はいない。
偉大なるピアニストもまた然り。
奇才アフアナシエフの今の境地を、シューベルトとベートーヴェンから感じたい。

文 ● 青澤隆明 (音楽評論家)

ヴァレリー・アフアナシエフ (ピアノ)

Valery Afanassiev

モスクワ生まれ。エミール・ギレリスに師事。パッハ国際音楽コンクール、エリザベート王妃国際音楽コンクールで優勝。1983年にギドン・クレーメルと共に初来日。これまでにDG、DENON、ECM、若林工房、ソニークラシカルなどから40枚以上のCDをリリース。エッセイ、詩、小説を発表する文学者の顔も持っている。現在は、ブリュッセルを拠点に現代におけるカリスティックなピアニストとして注目を集め続けている。近年の心境については「ピアニストは語る」(講談社現代新書)で率直に明かされている。

深淵を覗き込む思索の音楽から 自由を謳歌する解放の音楽へ

芸術の探求にとって、20年という歳月がどれほどの長さを意味するのかはわからない。きっと、永遠のまえでは一瞬とみえることが、一瞬のなかでは永遠であったりもするのだろう。ただ、人生における重みに関して言えば、人それぞれにせよ、やはり大きな意味をもつのは確かだ。

ヴァレリー・アフアナシエフが彩の国さいたま芸術劇場を訪れたのは、20世紀の終末だった。1999年7月3日のリサイタルで《楽興の時》とト長調ソナタD 894を組み合わせて、シューベルトの世界に臨んだ。私は残念ながらこの演奏会を聴けていないので、前後の時期の演奏から類推するしかないが、アフアナシエフは深重に時間をかけて、シューベルトの時を引き延ばしながら、その深淵を覗き込もうとしたことだろう。おそらく、ときには亀裂のような断崖を鋭く穿つようにして。

アフアナシエフはそうして、おそらく彼自身の世紀末を生きていたに違いない。言ってみれば、それはヨーロッパ芸術の黄昏である。その亡霊のような膨大な影を延ばしながら、ピアニストは重たい劇の幕引き間際を、深刻な面持ちで、とぼとぼと孤独に歩いていたはずだ。

音楽は思索であり、思索は音楽である。アフアナシエフは書くことに、ときに演奏以上ともみられる情熱を注ぐが、彼にとって音楽作品の読解は、ダンテやシェイクスピア、カフカやボルヘスを含めた言語作品を読み解くのと同じく、文学的な精神の営みに繋がっている。しかし、その創造表現が響きの時空に結実してなされることは、その彼がピアニストとしての技量をもつからこそ可能な達成だ。

もちろん、煉獄や地獄、自由や裏切りといった主題の多くをめぐって、アフアナシ

エフの文学的な読みと想像力が、その演奏に広大な奥行きを与えてきたことは確かだろう。しかし、ときに過剰なまでに演劇的な素振りを見せる彼の演奏表現が、かえってナイーヴに内情を映し出すのは、そうした恣意的な意図や演出そのものによるのではなく、それにまっとうに殉じていく内心の率直さや、その断面にみえる感情の噴出のうちである。

しかし、アフアナシエフはその後、その荷重に耐え続けるよりもむしろ、自らを解き放つようにして、新たに精神の自由を謳歌するようになってきた。変化が顕著になってきたのは、彼が日本でいう還暦を過ぎる頃からのことで、それは私が実演で意識した時期と、本人の自覚がともに重なっている。2009年のリスト・プログラムで、とくに口短調ソナタを聴いたときには、この異変はいよいよ強く感じられた。自身の年輪だけでなく、彩の国にも縁深いピナ・パウシュの芸術に触れたことも、さらなる表現上の自由に勇気を抱く契機となったと本人は明かしていた。

死への思索に傾斜しがちな没入が、より生命や感情をまなざす方向へと開かれてきたというふうにもみえる。より具体的に言うなら、独特に引き延ばされた遅いテンポが、しだいに足どりを速めるようにもなった。あるいは自らの精神の重力空間から逃れるかのよう。そうして、アフアナシエフは、自身の感情的な豊かさを、ナイーヴなまでの脆さとともに打ち明けるようになってきたのである。

ベートーヴェンの中期ソナタに アフアナシエフの変容を聴く

さて、ベートーヴェンでは後期作を得意とするアフアナシエフが、意を決して「熱情ソナタ」をはじめとする中期の傑作へと取り組み、CD録音にその成果を刻んだのが2015年2月のことだった。「悲愴」「月

チケット販売中

ヴァレリー・アフアナシエフ ピアノ・リサイタル

10.13(土)15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[曲目]シューベルト:3つのピアノ曲(即興曲) D 946

ベートーヴェン:ピアノソナタ 第17番 二短調 作品31-2「テンペスト」
ピアノソナタ 第23番 へ短調 作品57「熱情」

チケット(税込) 一般 正面席7,500円 メンバーズ 正面席 6,800円

※バルコニー席、U-25席は予定枚数終了。

光」[熱情]の3つのソナタであるが、とくにリヒテルを凌駕する演奏ができないからと長らく自らを戒めていた「熱情」については、ハーモニーへの音楽的思索を深めるなかで新しい表現の可能性を見出した、というのが決断の理由だった。

その時点では録音のみで、実演では弾かないと語っていた「熱情」も、まもなくリサイタルで演奏するようになり、あわせて弾いていた「テンペスト」も、第1番へ短調作品2の1、第7番二長調作品10の3とともに2016年4月に録音した。同じときにモーツァルトの3曲の傑作ソナタ、イ短調KV 310、ハ長調KV 330、イ長調KV 331も録音され、こちらが先にリリースをみたが、この双生的なアルバム2作はモスクワ時代からの恩師であるエミール・ギレリスの生誕100周年に捧げた渾身のレコーディングでもあった。

この秋、ほぼ20年ぶりとなる彩の国でのリサイタルでは、ベートーヴェン中期の傑作ソナタ、二短調「テンペスト」とへ短調「熱情」が採り上げられる。アフアナシエフ近年の変容と新たな自由を聴くのに、もってこいの選曲と言えるのではないか。シューベルトが最期の年に遺した《3つのピアノ曲》は、2005年の日本公演もライブCD化されているように、アフアナシエフが同年作曲の後期ソナタと同じく手の内に収めた孤高の名作である。

アフアナシエフの変わらない内面の深みと、古希を超えていよいよ瑞々しさを増した自由を垣間みるのに相応しいプログラムが組まれた。20年近い歳月はもちろん、聴き手である私たちにも多様な変化を与えているだろう。誰にしてみても、変わらないものも、変わり続けるところもある。複雑な感情、驚きや諦観もすべて含め、それが生きていくということに他ならないのだから。

みなさんに 僕のシューマンを 聴いてもらいたい

新進気鋭のピアニストが意欲的なプログラムを披露する「ピアノ・エトワール・シリーズ」。10月は、2017年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール第3位のダニエル・シューが登場。歌心あふれる繊細なタッチと、力強くも美しい響きで魅了するシューが、21歳のいま弾きたい曲とは。

取材・文 ● 高坂はる香 (音楽ライター) Photo ● ヒダキトモコ



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.35

ダニエル・シュー

Interview with Daniel Hsu

演奏することで、音楽、神の愛情を 人と分かち合いたい

「みなさんに僕のシューマンを聴いてもらうこと。それが今度のプログラミングの目的です。待ち望んでようやく弾くことができる作品なので」

3年前、ダニエル・シューが18歳だった頃、とあるアメリカのホールの公演でシューマンの《幻想曲》をプログラムに入れようとしたところ、近い日程で他のベテランピアニストが弾くからと却下されたことがあるのだという。

「だから今回は《幻想曲》だけは絶対に譲れないと、早めにお伝えしておきました

(笑)

ある作品について、聴衆と分かち合いたい解釈や想いがある。そんな明確なビジョンとともに奏でられる音楽は、強いメッセージを語りかけてくるだろう。

ダニエル・シューは、1997年カリフォルニア生まれ。近年アジア系をはじめとする優れた若手を次々輩出するカーティス音楽院で学び、昨年、テキサスで行われたヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで第3位に入賞した。趣味はコンピューター・プログラミングで、開発したiPhoneアプリが2015年にアップル・デザイン・アワードを受賞したそうだ。

この経歴だけ聞くと、多才で器用な今時

のアメリカ育ちの若者という印象を持つかもしれない。しかし彼の場合、音楽に向き合う姿勢はとて真面目で、むしろ不器用といえるほどだ。2015年の浜松国際ピアノコンクールで第3位に入賞した際、ピアニストとしての目標を尋ねてみたところ、こんな答えが返ってきた。

「僕が強く願っているのは、演奏することで、音楽を、そして神の愛情を人と分かち合いたいということです。大きなホールでなくてもいい、学校や図書館など小さな場所で少ない人たちに演奏するのもかまわないので、ただピアノを弾き続けたいと思っています」

若くして、すでに音楽の本質を見出して

いるかのような発言。そんな彼の演奏については、この時の審査委員長だった海老彰子さんも「あの年齢であんなに円熟した演奏ができるのは一体なぜかと驚いた」と評価した。

人生・感情が現れたロマン派の作品は 演奏していて心地良い

そんなダニエル・シューが、あたためてきたシューマンを中心としたプログラムを披露する。彼はシューマンのどんなところに惹かれるのだろうか。

「ほとんどの作品が好きですが、中でも《幻想曲》は彼自身を表したような曲です。シューマンの人生は、長い間愛する女性を追い求め、結ばれた後も苦悩を抱えて生きたという悲劇的なもので、それが音楽に反映しています。

でも、それほどに誰かを深く情熱的に愛せるのは特別なこと。彼はある意味とても幸運だったのではないかと思います。心の痛みを感じても、想いは絶対に揺らぐことがなかった。今の時代にそんな愛は存在しないのではないかと……」

前半のプログラムは、後半のシューマン

を際立たせるべく組み立てた。ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第31番、バッハ(ブゾーニ編曲)の《シャコンヌ》はクライバーン・コンクールで演奏し、以後しばらく寝かせてあったレパートリーだ。

「あの時と今で、僕は違う人間になっていると思います。僕が変わるごとに、作品の解釈も変わっていきますから、違った表現になるでしょうね」

また、ショパンからは晩年の《マズルカ》作品56を選んだ。

「子どもの頃、ショパンをよく演奏していたので、その反動もあって一時期離れていました。最近また作品に取り組んでいると、ショパンの世界を再訪しているような気持ちになります。僕がショパンについて感じることも、ショパンが語りかけてくることも変化しました」

ロマン派周辺の作品を集めたのは、自身の感覚に最も近いからだという。

「個々の人生や考え方、感情が現れたロマン派の作品は、とても興味深い。僕自身、実はかなりいろいろな感情を持っているタイプなので、演奏していると心地良いのです」

チケット販売中

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.35 ダニエル・シュー ピアノ・リサイタル

10.28(日) 15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[曲目] ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第31番 変イ長調 作品110

J. S. バッハ(ブゾーニ編曲):シャコンヌ

ショパン:3つのマズルカ 作品56

シューマン:アラベスク 八長調 作品18

シューマン:幻想曲 八長調 作品17

※曲順未定

チケット(税込) 一般 正面席3,500円 メンバース 正面席3,200円

バルコニー席2,500円/U-25*(バルコニー席対象)1,000円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

ダニエル・シュー(ピアノ)

Daniel Hsu

1997年アメリカ生まれ。10歳でカーティス音楽院に入学、ラン・ランヤユジャ・ワンを育てた名教授G・グラフマンとE・ソコロフのもとで10年間学ぶ。2015年第9回浜松国際コンクール第3位(最年少参加)入賞、2017年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール第3位及び、室内楽演奏賞、新曲演奏賞受賞。2016年ギルモア・ヤング・アーティスト賞受賞。2017年カーネギーホール(ワイルリサイタルホール)デビュー。コンピュータープログラミングにも親しんでおり、開発貢献したiPhoneアプリ「Workflow」が2015年アップル・デザイン・アワードを受賞した。



豊かな感情を抱え、たった一人楽譜とピアノに向き合い、作曲家たちの精神に寄り添って没入していく。ピアニストはそんな、とても甘美でどこか危ない仕事をしているのですねと語りかけると、「そうですね。一番おもしろいけれど、同時に一番危ない仕事です。警察官や軍人と比べても、危険さでいったらピアニストにはかなわない。……もちろん冗談ですけど!」

そう言って笑っていた。しかし実際、彼ほど真剣に音楽に向き合っているなら、ピアニストという仕事は精神的に相当タフな生業といえるだろう。

まだ21歳。これからの変化も楽しみだが、まずは彼の念願叶ってのプログラムで、今の心にある音楽を聴いておきたい。

DANCE

コンドルズ 埼玉公演2018新作

『18TICKET』

6.2(土)・3(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

埼玉でのコンドルズ公演も12作目。青春18切符を意味する“18TICKET”をタイトルに冠した今年の新作は、駅やレストランなど、旅先でのひよんな出来事を思わせる風景が、ダンスによって弾んでいった。舞台上にメンバーの人数分が立てられ、あちこちを指す矢印は、それぞれに個性のベクトルを持つコンドルズそのもの。いつものシュールな人形劇はもちろん、シャーマンコント(?)やダンスもたっぷり！大きなセリを使った場面展開も迫力満点だった。旅に出ようぜ——若い青さを想起させた昨年の『17's MAP』の続編のような、〈人生=旅〉を表現するような、物語性あるダンスを堪能した。



Photo©HARU

DANCE

フィリップ・ドゥクフレ / DCA

『新作短編集(2017) -Nouvelles Pièces Courtes』

6.29(金)~7.1(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

空間芸術の魔術師フィリップ・ドゥクフレの短編集。シンプルかつ緻密な動きで魅せるデュオ、舞台上に現れた“穴”を使ったコミカルなダンス、カラフルでトリッキーなデュエット、ループする映像を使った万華鏡のような風景、夢の中の様な空中パ・ド・ドゥ……オムニバス形式で次々に違うピースが現れ、その世界の豊かさに改めて驚かされた。今回は、ドゥクフレが日本で出会った経験を取り入れた、日本文化にオマージュを捧げたチャーミングな小品も！坂東玉三郎の舞踊から刺激を受けてつくったシーンでは、ドゥクフレ自身が女性的な動きを披露。集中度の高い美しい動きから、リスペクトが伝わってきた。



Photo©Arnold Groeschel

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.34

シャルル・リシャル＝アムラン

6.10(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

2015年ショパン国際ピアノ・コンクール第2位で大きな注目を集めるアムラン。抒情的なモーツァルト《幻想曲》のち、ショパン《即興曲》全4曲はインスピレーションに富み、温かな音に加え、楽器を底から鳴らす力強い響きも彼の魅力であることを示した。知られざる作品を発掘・紹介することを使命と考えるアムランは、アルメニアの作曲家バジャニアンとの4作品を演奏。哀愁漂う音楽は日本人好みともいえ、観客に新たな世界を開いてくれた。この日の白眉、ショパン《バラード》全4曲はコンクール第2位のテクニックと若きエネルギーで、作品ごとのドラマを情感豊かに演奏。最後の第4番は繊細さとダイナミックさを併せ持つ詩的な演奏で魅せた。



Photo©加藤英弘

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第35回

天羽明恵(ソプラノ)

6.29(金) 埼玉会館 大ホール

第35回目はヨーロッパをはじめ国内外で活躍する天羽明恵が、ピアノの古藤田みゆきとともに出演。ランチタイム・コンサートはじまって以来の独唱の回は「恋」をテーマに、邦人作品からオペレッタまで幅広い作品が並んだ。中田喜直の歌曲集から〈はなやぐ朝に〉では、曲冒頭を舞台袖で歌ったのちステージに登場し、観客を驚かせた。続いて〈初恋〉、〈からたちの花〉ではしっとりとした日本歌曲の魅力を、歌曲の名作シューマンやモーツァルトでは叙情性豊かな美声を聴かせた。オペレッタ《こうもり》、《キャンディード》ではユーモラスな表現を交えて見事に歌い上げ、会場は大いに沸いた。



Photo©加藤英弘

PLAY

さいたまネクスト・シアター^{ゼロ}

世界最前線の演劇1 [ベルギー]

『ジハード -Djihad-』

6.23(土)~7.1(日) 彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO

蜷川幸雄が育てた若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」が、同時代の戯曲を上演するシリーズを開始。その第一弾、新旧メンバーによる「さいたまネクスト・シアター0 (ゼロ)」の公演は、ベルギーのモロッコ系移民2世のイスマエル・サイディが「若者はなぜジハードに向かうか」を、ユーモアを持って描いた戯曲だ。イスマエル、ベン、レダ……ベルギー社会で孤立している登場人物たちは、音楽に心ふるわせ、芸術を楽しみ、恋人を愛する、ごく普通の若者たち。役者たちによる真摯でまっすぐな演技によって、生まれた場所を故郷と言えない若い人たちの孤独が、脈打つように伝わってきた。



Photo©宮川舞子

MUSIC

光の庭プロムナード・コンサート第100回

100回記念スペシャル ~声とオルガンのハーモニー~

6.30(土) 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ

100回を記念して行われたコンサートは、シリーズの構成を手がける大塚直哉と若手声楽家8名による、オルガンと合唱の共演という華やかな内容。冒頭のカベソンのマニフィカトはグレゴリオ聖歌との交互唱。オルガンの原点を感じる、声との美しい掛け合いで印象的に始まり、続くラッソ《スザンナはある日》では、5声の合唱の後に、それに基づくカンツォンをオルガン・ソロで演奏した。そのほか、バッハのコラール「主よ、人の望みの喜びよ」などの作品で見事なアンサンブルを聴かせ、アンコールには日本の歌を披露。会場は幸せな空気に包まれた。大勢集まった聴衆は、第100回を祝い、今後のさらなる発展を願うように大きな拍手を贈った。



Photo©加藤英弘

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

Calendar grid with columns for PLAY, DANCE, MUSIC, CINEMA. Includes event details like 'オックスフォード大学演劇協会 来日公演『十二夜』' and '大塚直哉レクチャー・コンサート J.S. バッハ『平均律クラヴィーア』の魅力'.

彩の国シネマスタジオ 【全席自由・各回入替制・整理券制】 大人1,000円 学生500円

8.2(木) 埼玉会館 小ホール 『この世界の片隅に』 (2016年/日本/123分)

8.22(水)~26(日) 映像ホール 『幼な子われらに生まれ』 (2017年/日本/127分)

8.30(木)・31(金) 埼玉会館 小ホール 『大いなる幻影』 (1937年/フランス/114分)

9.12(水)~16(日) 映像ホール 『ダンサー、セルゲイ・ポルーニン 世界一優雅な野獣』 (2016年/イギリス・アメリカ/85分)

9.20(木)・21(金) 埼玉会館 小ホール 『道』 (1954年/イタリア/108分)

10.2(火)・3(水) 埼玉会館 小ホール 『眺めのいい部屋』 (1986年/イギリス/117分)

10.11(木)~15(月) 映像ホール 『はじめてのおもてなし』 (2016年/ドイツ/116分)

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 埼玉会館 埼玉会館 *U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。

PLAY

販売中 オックスフォード大学演劇協会 来日公演 『十二夜』 英語上演/日本語幕付き

販売中 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 平成29年度 彩の国落語大賞 受賞者の会 春風亭昇也

販売中 さいたまネスト・シアター 世界最前線の演劇2 [ドイツ/イスラエル] 『第三世代』

DANCE

販売中 Noism1xSPAC 劇的舞踊vol.4 ROMEO & JULIETS

販売中 イスラエル・ガルバン 『LA EDAD DE ORO—黄金時代』

販売中 バンガラ・ダンス・シアター 『Spirit 2018』I.B.I.S.]

販売中 近藤良平と障害者ダンスチーム「ハンドルズ」による公演

発売日 一般 9.14(金) メンバース 9.7(金)

Opto 『optofile_touch』 12.8(土)・9(日) 15:00 小ホール

MUSIC

販売中 大塚直哉レクチャー・コンサート J.S. バッハ『平均律クラヴィーア』の魅力

販売中 埼玉会館 ランチタイム・コンサート第36回 NHK交響楽団メンバー&梯 剛之

販売中 Noism1xSPAC 劇的舞踊vol.4 ROMEO & JULIETS

販売中 イスラエル・ガルバン 『LA EDAD DE ORO—黄金時代』

販売中 バンガラ・ダンス・シアター 『Spirit 2018』I.B.I.S.]

販売中 NHK交響楽団 井上道義(指揮) 辻 彩奈(ヴァイオリン)

販売中 ヴァレリー・アフアナシエフ ピアノ・リサイタル

《世界ゴールド祭2018》チケット情報


2018年9月22日(土)から10月8日(月・祝)に行われる《世界ゴールド祭2018》。公演ごとのチケット販売、ワークショップの募集を開始しました。多彩なプログラムをととして、高齢社会におけるアートの可能性に迫ります。参加をお待ちしております。

◆さいたまゴールド・シアター

予定枚数終了
<div>【演劇】</div> さいたまゴールド・シアター×菅原直樹 徘徊演劇『よみちにひはくれない』浦和バージョン 9.22(土)～24(月・休) 11:30／15:00 さいたま市(浦和) 市街地 チケット(税込) 一般・メンバーズ 2,500円 ※各回定員20名予定。 [上演時間] 約90分(予定) ※各回終了後、埼玉会館にてアーティストトーク(30分程度)をおこないます。

申込不要
<div>【演劇】</div> さいたまゴールド・シアター×デービッド・スレイター 『BED』 9.29(土) 12:00～13:00／15:00～16:00 彩の国さいたま芸術劇場・JR与野本町駅(西口)周辺 9.30(日) 13:30～14:30／15:30～16:30 大宮銀座通り商店街(JR大宮駅東口) [無料]

◆ゴールド・アーツ・クラブ

発売日 一般 8.19(日) メンバーズ 8.18(土)
<div>【演劇】</div> ゴールド・アーツ・クラブ×ノゾエ征爾 『病は気から』 9.29(土)・30(日)、10.3(水)～8(月・祝) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 

◆インターナショナル・ショーケース

販売中
<div>【ダンス】</div> サドラーズ・ウェルズ劇場 カンパニー・オブ・エルダース 『新作2018 トリプルビル』 9.22(土)～24(月・休) 15:00 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール チケット(税込) 全席自由 2,500円 [上演時間] 約1時間 ※終演後、アーティスト・トークをおこないます。 〈関連イベント〉 9.23(日・祝)・24(月・休) 開演前にダンス・ワークショップあり。 〈ワークショップ〉 をご覧ください。

販売中
<div>【ダンス】</div> マチュア・アーティスト・ダンス・エクスベリエンス 『フロック(ドレス)』 9.28(金) 19:00、 29(土)・30(日) 16:00 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール チケット(税込) 全席自由 2,500円 [上演時間] 約1時間 ※終演後、アーティスト・トークをおこないます。 ※英語によるナレーションあり(日本語字幕付き)。

販売中
<div>【演劇】</div> グロウワーズ・ドラマ・グループ 『カンボン・チュンプダ(チュンプダの村)』 10.4(木) 19:00、 5(金)・6(土) 15:00 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール チケット(税込) 全席自由 2,500円 [上演時間] 約1時間 ※終演後、アーティスト・トークをおこないます。 ※中国語・英語・マレー語・タミル語での上演(日本語・英語字幕付き)。

◆シンポジウム

要申込
高齢者社会におけるアートの可能性をめぐり、各国の先駆者たちがリポート。海外のさまざまな事例を共有し、議論を深めます。 9.29(土) 13:00～15:30(予定)、 30(日) 13:00～15:15(予定) 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール [対象] どなたでも参加できるプログラムです [無料]

サポーター会員


<p>(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2018.7.15現在／一部未掲載)</p>

㈱与野フードセンター／㈱亀屋／㈱松本商会／㈱香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／㈱パシフィックアートセンター
㈱アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／カヤバ システム マシナリー(㈱)／㈱タムロン／㈱十万石ふくさや／森平舞台機構(株)
東芝エルティエエンジニアリング(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルバインズホテル／アルピーノ村／国際照明(株)／埼玉スバル
㈱佐伯紙工所／㈱太陽商工／㈱しまむら／不動開発(株)／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／㈱栗原運輸／彩の国S Pグループ／(有)ブラネッツ／(株)デサン
セントラル自動車技研(株)／丸美屋食品工業(株)／ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)埼玉交通
サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房
(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)綜合舞台／(一財)さいたま住宅検査センター／(株)国大グループホールディングス／オーガスアリーナ(株)
イープラス／六三四堂印刷(株)／(医) 榎会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医) 山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／(株)三和広告社
(株)セノン／ショッパー／(株)松尾楽器商会／JA埼玉県中央会／日本大学芸術学部／(株)川口自動車交通／(株)ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや
(有)杉田電機／丸茂電機(株)／太平ビルサービス(株)さいたま支店／(株)片岡食品／(株)協栄／(株)ヨコハマタイジャパン／NTT東日本 埼玉事業部
(株)平和自動車／光陽オリエントジャパン(株)／さくら Music Office／クワバラ・パンぶキン／東和アークス(株)／テレビ埼玉／日本ビストンリング(株)
金井大道具(株)／国立大学法人 埼玉大学／(株)七越製菓／ビーンズ与野本町／(株)コマーム／(株)原一探偵事務所／川口信用金庫／青木信用金庫／(株)和幸楽器
新日本ハウス(株)／大栄不動産(株)／相川宗一／(株)ハイデイ日高／浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券(株)／AGS(株)／(株)ジャスト
(株)ワイイーシーソリューションズ／白神久吉／医療法人青木会／むさし証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)／(株)シルバーデントラルラボラトリー
(株)エスポイント／藤信地所(株)／津田工業(株)／(株)積田電業社／ポートピア岡部・栗橋／中央税務会計事務所／(株)東京コーン紙製作所
トヨタカローラ埼玉(株)／放送大学埼玉学習センター／GARO DAYHAPPY／(株)有村紙工／(医)たかだクリニック／SMBC日興証券(株)／(株)アステック
(有)加藤工業／(株)ジェイコムさいたま

お問い合わせ (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507

TICKETS チケット

MUSIC

販売中
ピアノ・エトワール・シリーズVol.35 ダニエル・シュエ ピアノ・リサイタル 

販売中
アレクセイ・ゲラシメス パーカッション・リサイタル 11.4(日) 15:00 <small>小ホール</small> [曲目] ゲラシメス：アスヴェンチュラス クセナキス：ルボンB <small>ほか</small> チケット(税込) 全席自由 一般3,300円 U-25* 2,000円／メンバーズ3,000円 ※アフタートークを予定

販売中
バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ《クリスマス・オラトリオ》全曲 11.24(土) 15:00 <small>音楽ホール</small> [出演] 鈴木雅明(指揮) ハナ・ブラシコヴァ (ソプラノ) クリント・ファン・デア・リンデ(アルト) ザッカーリー・ワイルダー (テノール) クリスティアン・イムラー (バス) チケット(税込) 一般 正面席 8,500円 バルコニー席 7,500円 U-25* (バルコニー席対象) 3,000円 メンバーズ 正面席 7,700円 ※11月17日(土)関連レクチャーあり。要申込。詳細は財団ホームページをご確認ください。

発売日 一般 8.11(土・祝) メンバーズ 8.4(土)

ピアノ・エトワール・シリーズVol.36 レミ・ジュニエ ピアノ・リサイタル
2019年 1.12(土) 15:00 <small>音楽ホール</small> [曲目] J.S. バッハ：カプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」BWV 992 ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第23番 短調 作品57「熱情」 ショパン：4つのマズルカ 作品17 ストラヴィンスキー：「ペトルーシュカ」からの3楽章 チケット(税込) 一般 正面席 3,500円 バルコニー席 2,500円 U-25* (バルコニー席対象) 1,000円 メンバーズ 正面席 3,200円

発売日 一般 8.12(日) メンバーズ 8.11(土・祝)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第37回 トルヴェール・クワルテット (サクソフォン四重奏) with 小柳美奈子 (ピアノ)
12.7(金) 12:10(終了予定13:00) 埼玉会館 大ホール [曲目] J.S. バッハ(須川展也編曲)：G線上のアリア いずみたく(石川亮太編曲)：見上げてごらん夜の星を <small>ほか</small> チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売日 一般・メンバーズ 9.2(日)

オルガン・レクチャー(演奏付) ポジティブ・オルガン+α(アルファ)アンサンブルの楽しみ ヴァイオリンと奏でるロマンティックなバロック!?
2019年 1.20(日) 13:00 彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 [出演] 大塚直哉(オルガン・講師)、島田真千子(ヴァイオリン) [曲目] ジャズポット：アルビノーニのアダージョ ヴァイタリ：シャコンヌ <small>ほか</small> ※当初発表した開講時間(14:00)が13:00に変更となりました。ご了承くださいませようお願いいたします。 チケット(税込) 全席自由 1,000円

発売日 一般 9.15(土) メンバーズ 9.8(土)

アリーナ・イブラギモヴァ&セドリック・ティベルギアン デュオ・リサイタル

2019年 2.17(日) 15:00 <small>音楽ホール</small> [出演] アリーナ・イブラギモヴァ (ヴァイオリン)、セドリック・ティベルギアン(ピアノ) [曲目] ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第3番 作品12-3 ヤナーチェク：ヴァイオリン・ソナタ ケージ：6つのメロディ シューマン：ヴァイオリン・ソナタ 第2番 作品121 チケット(税込) 一般 正面席 5,500円 バルコニー席 4,500円 U-25* (バルコニー席対象) 2,000円 メンバーズ 正面席 5,000円

発売日 一般 9.15(土) メンバーズ 9.8(土)

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第14回 清水和音 ピアノ・リサイタル
2019年 2.24(日) 15:00 <small>音楽ホール</small> [曲目] シューマン：こどもの情景 作品15 ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第30番 作品109 尾高惇忠：ピアノのためのバラード 第1番 リスト：ピアノ・ソナタ 短調 チケット(税込) 一般 正面席 4,000円 バルコニー席 3,000円 U-25* (バルコニー席対象) 1,500円 メンバーズ 正面席 3,600円 ※12月16日(日)関連企画あり(要事前申込み)

チケット購入方法
インターネット
 SAF オンラインチケット で、発売初日 10:00 から 公演前日 23:59 まで 受付いたします。
 【PC・携帯共通】 http://www.ticket.ne.jp/saf/
メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
一般 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券 または【コンビニ支払い】
<small>※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。</small>

電話予約
チケットセンター 0570-064-939 10:00～19:00(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く) <small>※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。</small>
メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
一般 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券 または【コンビニ支払い】
<small>※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。 ※コンビニ支払い後にチケット配送も承りますが、チケット代ほかに配送料(配送1件につき400円)が必要です。</small>
窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口(10:00～19:00)で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取もできます(メンバーズは登録のご住所への配送となります)。
※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ 【口座引落】	その場で チケット を お渡しします。 ※手数料は かかりません。
一般 【現金】または【クレジットカード決済】	

林家彦いちの ”一歩外へ”

第3回



はやしや・ひこいち
1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK 新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。

イルカ兄さん！ 待ってくださーい

文と写真 ● 林家彦いち

大人になると年間のスケジュールがだいたい決まってくる。僕の場合も季節ごとの遊びで手いっぱい。その隙間にお仕事。いやもとい。仕事の間を縫って外へ向かう。

今年の都内寄席の出番を数えてみたら6月現在で100席を超えていた。それ以外にホール落語会、地方公演もこなしているからもおエライ！自分で褒めちゃう。

隙間がないようなところに「御蔵島どう？」という誘いがあった。聞くとイルカと泳ごうというのだ。

伊豆七島の、御蔵島。港が一つしかないで風で船が欠航することも多い。人口300人ほどの小さな島。ビーチもない。海からきりたった岩がそびえている。来る人をこぼんでいるようである。これまで行ったことがなかった。

恐る恐る、島に足を踏み入れた。コンビニもチェーン系のレストランも無い。気持ちがいい。

港から急な坂をあがったところに集落が一つのみ。学校も役所も郵便局もこの一角にある。

坂道しかないので自転車は禁止らしい。

目的のイルカと泳ぐため船に乗り込み島の周りを移動。しばらく行ったところで船長から合図があったので目の前の海に飛び込んだ。素潜りなんて何年ぶりだろう。

天候も潮目もよかったようで透明度が高い。水深15、6メートルの底までははっきりと見える。

飛んでるようだ。気持ちがいい。ぼんやりしていると先行者が動き出した。その方向へ顔を向ける「ピィ〜」とい



う鳴き声が聞こえたかと思うとすぐ横にイルカ様だ。次々とやってくる。ここに生息しているイルカはほぼ個体認識されている。泳ぎがうまい常連さんは「あの子だ！」と一緒にくるくる泳いでいる。映画『グラン・ブルー』のよう。ジャック・マイヨールに憧れた若手二ツ目時代を思い出した。よく足ヒレ持参で南の島へ向かっていた。「よし！」とばかりに潜るが追いつけない。そこへ一頭のイルカが近づいてきてきびすを返した。「付いて来い！」ってことだろうか。急ぎ後を追った。心の中で「イルカ兄さん！待ってくださーい」と情けない。

一緒に泳ぐことはままならなかったが、水の中の気持ちよさを思い出した。浮遊感がたまらない。

島へ上がり夜、歓迎会が開かれた。島の温かさと奥深さを少し教わった。定期的に通って一年。趣味に「御蔵島」が加わった。



演劇担当 @Play_SAF
舞踊担当 @Dance_SAF
音楽担当 @Music_SAF



彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater
埼玉会館 @saitamakaikan



Instagram 埼玉会館 @saitama_kaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第76号(8月-9月)

平成30年8月1日発行(隔月1日発行)

発行人: 竹内文則

発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500